

では、暴力に依らず而も、懲らしんで居る者も、強制は食に困る事が出来ぬ爲めに、日暮更遅する者が大半で、本來は一千二十九名の櫻痴が、日時より百二十人増加して居るに反し、他の勞働者は、四十木、廿四木、十八木、十二木、八木、五木、三木、一木の如きで、四十七石を減らして居るといふ有

たしむる方針である。難谷のみであつたが、過ぎなかつたが本年定した爲め申込兒童は、

最後の講義
読みの由來

一名の検束者を出した
本朝の裏切者撃滅デー
應援の無產青年同盟會員

新解説 江戸の 内鼻柱の強い船業者側

卷之二

— — — — —

Digitized by srujanika@gmail.com